

変わってしまった日常—コミュニケーションの大事さ—

鹿児島県言語聴覚士会 湯田 大介

「じゃあ、鹿児島アリーナに7時に集合ね。放射線科と栄養科、先生（医師）にICUも新しい人を連れてきてくれるみたい。把握しているだけで今日は20人来てくれるのかな。今日は3コート取れたから休憩入れてちょうどいいかもね。早めに行ってコート張っとくわ。またあとで。」——初めまして。鹿児島県言語聴覚士会の湯田と申します。城山町にある鹿児島医療センターという急性期病院で言語聴覚士をしております。突然なんの話だろうと思われた方も多いかもしれません。これが「新型コロナウイルス感染症」なんて言葉がまだ存在していなかった頃の終業後の私の日常会話でした。私はスポーツをするのが好きで、職場の方たちやその知人たちとバドミントン、フットサル、バスケットボール、バレーボール、野球といった競技を終業後や休日に、多いときで週に3回ほど行っていました。野球以外のスポーツはコートの予約や参加人数の確認、活動資金の管理まで全て私が行っていました。コートの予約がとれた際に参加可能な人数を確認し、一定数参加が見込めれば開催の案内をする。鹿児島市の施設は一括して「鹿児島市生涯学習情報システム」というサイトから簡単に施設の予約・キャンセルができるため一人で運営していても特に大変だとは思いませんでした。そんな感じでいろんな方とわいわい楽しい社会人生活を送っていたわけなのですが、突然活動中止を余儀なくされました。そう「新型コロナウイルス感染症」の世界的大流行です。「感染者数が減っているから再開してもいいのではないかな」「フットサルは野外コートなのでよいのでは

ないか」「バドミントンは接触の多いスポーツではないし定期的に換気すれば、4人までならよいのではないかな」状況が変化する度にそんなことを考えていましたが、「自分（医療関係者）が主催した場所で、もしもクラスターが発生してしまったら・・・。」という考えを拭うことはなかなかできませんでした。気が付けば最後に活動したのはもう1年半も前になります。「新型コロナウイルス感染症」によって変化したものはそれだけではありません。飲み会全般の実施が困難となり、県外への移動の制限が敷かれ、密になる空間で行うイベント全般が困難となりました。「楽しみが減った」それだけでQOLがどれほど低下するかは想像に難くないでしょう。というよりもこれを読んでくださっている方のほとんどがそう感じていることと思います。さて、前置きが長くなりましたが、私が先述したような活動を行っていたのはスポーツが好きということは当然ながら、「一緒に働いている人たちを知る。話をする機会を得るための場を持つ」という意味合いが非常に大きかったです。ほとんどの仕事はそうだと思いますが、自分の部署だけでなんとかなるというものではなく、他部署との繋がりが大事です。私たち言語聴覚士も臨床業務を行う上で他部署との関わりは絶対に必要であり、患者さんのことを考える際に、決して言語聴覚士一人で判断し対応するということはありません。リハビリの処方が出された際に処方した医師がどんな人でどういうことを大事にしているのか、患者さんの摂食条件を看護師に伝える際にどう伝えたらわかってもらいやすいか。

相手を知るということは、同時にこちらがどんな人間であるかを知ってもらうことです。少しでも「あ、この人知ってる」とお互い思えた方が話しやすいし受け入れてもらいやすいと思います。私は元来人見知りであり、普段あまり出入りしていない病棟からリハビリの処方を頂いた時は正直少し憂鬱です。病棟の看護師さんと上手く話ができるか、考えを伝えることが出来るかと不安に駆られます。ですが・・・あれ？リハビリの処方を出した医師の名前をよくみると、なんと昨日バドミントンに来てくれた先生ではありませんか！よかった！話せる！一つ気持ちが楽になりました。はぁ・・・でも今から不慣れな病棟に行かないといけないな・・・なんて思いながら階段を昇っていく。さぁ今日の〇〇さんの担当の看護師は・・・と・・・あれ？昨日一緒にバドミントンをした看護師さんではありませんか！やったー！神様ありがとう！！スポーツやっててよかった！？ - なんてこともあります。上手く話せるだろうか・・・なんて思いながら始まる初めてのひととの会話は昨日すでに済ませてありますから、相手に「この人は何をしにきた人なのだろう」と思われることなくスムーズに患者さんの話ができるのです。一度知り合うと不思議ですね。昨日までこの人今まで一度も見たことないと思っていた人と急に廊下でよく会うようになったり（本当は今まで認知していなかっただけなのでしょうけど）。少し世界が広がった気になったりして。一度認知してもらってからは廊下で会った際に「今こんな患者さんがいるんだけど、対応してもらえるかな」と相談されることも増えました。このようにスポーツを通して職場の人と交流できることは非常に有益なことでした。残念ながら現在はスポーツだけでなく、病院全体や病棟をあげての飲み会なども休止しています。新入生歓迎会も

行われておらず、新入職員の名前もわからない、話したこともないといったことも増えてきています。会議もリモートとなり一堂に会することもほとんどなくなりました。もちろんそれは悪いことばかりではなく、遠方の方との会議の効率がよくなったなど却って改善された部分もあります。「本当に集まる必要があるのだろうか」と体制・方法の見直しなどには好影響であったとも言えます。「新型コロナウイルス感染症」によって私たちのこれまでの日常は形を変えてしまいました。当たり前にあったものがなくなってしまいました。その中でどう過ごしていくかをたくさん考えさせられたと思います。ワクチン接種が徐々に進み、海外ではワクチン接種者のマスク着用の義務が解除されてきているところも増えてきています。いいところは残しつつ、またみんなで集まって何かができる。そんな世の中になることを願いながら私の話は終わりたいと思います。

